

無限広報

無限広報 第一回 1998/06/06号

発行: 無限画廊&無限書房

発行責任者: 偉鷹 仁



初めまして。

『あれ』と『声』しか書いてない、無限書房の高嶋PONZZです。主催の偉鷹氏に問い合わせた所、無限画廊じゃペーパー書いてないよ、とのこと。

それで、俺がやろうやろうと騒いだことにより、俺が書くことになりました。言い出しっぺが尻拭いするのは世の習い、ちゅうことで、これからどうぞよろしく。

PONZZのエッセイ

というわけで、近況を書いた残りのページ、俺が好きに書いてもいいということになり、エッセイもどきを書くことになった。うまくいったらご喝采。

偉鷹仁の近況

現在、『死海 ~DEAD-SEA~』をかき上げた後、会社を二日連続で遅刻してしまったそうだ。なんでも、かき上げる一週間ぐらいから、一日の睡眠時間の平均が2時間と、暴挙な生活を送っていたからだという。締め切りが間近なのはわかる。わかるがしかし、仕事しながらのこの睡眠時間の量は無謀だと思うぞ。

遅刻したのは、曰く、三十路も間近で若くないからだそうだ。これには、俺も納得した。お互い、無茶は絶対やめたいものです。

かてて加えて、ゲームサークルの無限大陸が主催するゲームコンベンションの開催に関する作業が大変で、にっちもさっちもいかないらしい。同じく、秋のコンベンションの準備に時間が食われている……って、いつ漫画描くんだよ。

で、漫画のほうとなると、現在、『鬼の棲む鏡』の描き直しか『降魔聖伝』を描くか、どっちにしようか迷っているみたい。

色々悩むのはいいけど、手を動かすのも必要だと思うぞ、おいらは。時間的に苦しいのもわかるけど(俺も人のことは言えない)。



高嶋PONZZの近況

祝『あれ』初版売り切れっ!

現在2版が売り出されています(内容に変化なし)。嬉しいなあ。初版を買ってくれた方、どうもありがとう。

現在、『声』の2話が校正終了、3話が初稿上がりの校正待ち、という状況です。4話は、現在構想(?)中。なんせ、3話が2週間半で仕上がったので、充電の意味をかねてお休みしてるのです。他にもやりたい企画があるし。

1話では、あんな薄っぺらいページ数で大変申し訳ありませんでした。

2話と3話は、1話の憂さを晴らすかのように56ページ。正直、お買い得です。『声』全6話。これから先も、こんなページ数で進められるかわかりませんが、なるべく質、量ともに200円以上のものを書いていこうと思っています次第です。

期待していて下さい。

マイブーム

エッセイの冒頭がいきなりこれかい。

まあ、マイブームとはいっても、基本的に映像（写真含む）小説、漫画（絵画含む）音楽のこの四つにしか興味を持ってない俺なので、必然的にこの中から出てくることになる。例えば、北海道（俺は、北海道札幌在住の道産子）では1週間遅れで放送される『星方武俠アウトロスター』、こいつはイカしてる。『COWBOY BEBOP』も凄い。この2タイトル、俺的な視点では、内容、画質ともに『エヴァ』を越えている。

しかし、日アニの名作劇場がない今、子供の情操教育に役立つアニメが全くなくなっているのも確かな話だ（俺は見ないが）。せめて、『マンガ初めて物語』でも復活してほしい。

それとも、アニメは、すでにそうした作品を作るだけの予算を獲得できないのだろうか。

『声』

無限画廊のホームページで、去年の暮れあたりから公開されていた『声』が、どうして発刊にこんなに時間がかかったのかということ、当初予定していたストーリーでは行き詰まりがあったからだ。

で、最初のストーリーはどんなのかということ、1話で高見助教教授が録音したマイクロカセットの内容を記すシーンがあったが、このカセットテープを利用してクトゥルフホラー的なストーリー展開が行われる、というものであった。

それが、こんなに内容が変わってしまったのは、俺のストーリー展開に対する考え方の甘さというひょうたんから出た駒となってしまったからだ。その駒を出したのは、偉鷹氏の助言。俺が無限書房で出る小説は、校正も担当してくれている。ほんと、いつも感謝してます。

じゃあ、『声』ってなんなの

『声』は、そもそもPONZZの同人誌デビュー作にして問題作(?)である『あれ』の続編にあたる存在。だから、『あれ』の説明からしなければならぬだろう。

『あれ』は、実質、もう4年も前に書いた小説で、題材はアザトースという神の従者であるフルート吹きの持つフルートを使った、官能ホラーストーリー（と言われているが、そうなのか?）

その続編の『声』が出た今となっては、『あれ』は『声』のプロローグ的ストーリーとなってしまっている。

それで、ようやく本題に移ることができる。

『声』の上っ面のストーリーは、あくまでエセハードボイルドの探偵ものにクトゥルーのエッセンスをかけたものになっている。読みにくい文章のクトゥルー小説とは異なり（クトゥルー小説そのものを非難しているわけではない）すっきりとした文章で、実に読みやすい文章に仕上がっている。

だから、クトゥルーってなんなの、という人にも十分楽しめるように書いているつもりだ。

しかし、『声』のストーリープロットは、本当にクトゥルーの王道をいっているものだと思っている。どうして、エセハードボイルドの探偵もののストーリープロットが、クトゥルーの王道をいっているのか、と疑問に思う方は、ひとまず『あれ』と『声』の1話、2話を買って読んでもらいたい。合計で600円。損はさせないつもりだ。

最後に

今回から隔月ペースで出す予定のペーパー、無限広報だが、偉鷹仁と高嶋PONZZへの質問、要望がある場合、どしどし手紙に書いて（コミケの場合、売り子さんなんかに言って）下記の住所へ送って頂きたい。可能な限り、質問に答えて行くつもりである。

それでは、次回の無限広報を楽しみにしていただきたい。

See you late



最新情報や通信販売は、以下のホームページにて取り扱っております。

連絡先: 愛知県安城市横山町下毛賀知 51 - 11

中根方 公園丸

<http://www.japan-net.ne.jp/itaqua/>

e-mail: itaqua@japan-net.ne.jp